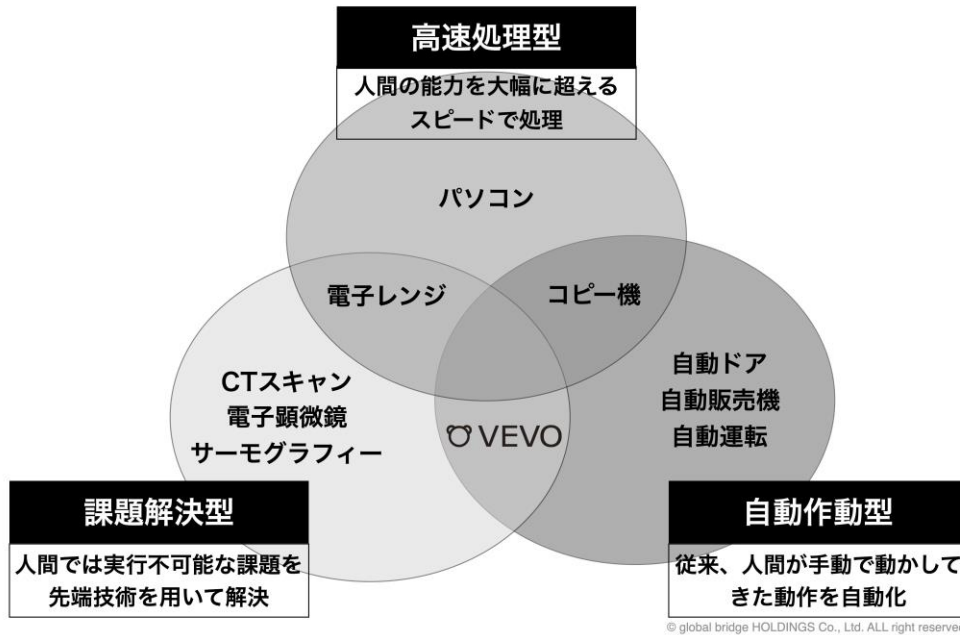


生産性を高める3つのタイプが示唆する 保育ロボットVEVOの革新性



生産性を高める方法は上図のように、大きく分けて3つのタイプがある。

1つ目は、最もポピュラーな「高速処理型」で、人間の能力を大幅に超えるスピードで処理するタイプである。パソコンがその代表例だろう。人間では何万年もの時間が掛かるであろう計算を一瞬で処理することができるため、生産性を何百倍から何万倍にも高めることが可能となる。

2つ目は、「課題解決型」で、人間では実行不可能な課題を先端技術によって可能にし、解決するタイプである。CTスキャンや電子顕微鏡やサーモグラフィーなどが代表例である。人間では絶対に見ることができない体の中の様子や、何万年先の星を見ることが可能になったため、0から100へと生産性を高めることが可能になる。

3つ目は、「自動作動型」で、従来、人間が手動で行っていたことを自動化するタイプである。自動ドアや自動販売機が該当する。近未来では自動運転がその代表格となるだろう。人間の代わりに自動的に機械が動いてくれるため、人間はその時間を別のことに充てることができるようになった。例えば、両手で荷物を持ったままドアを開けることが出来るし、店に立たずに飲み物を売ることが出来る。将来は自動運転中に車内で睡眠時間を確保したり、会議もできたりするようになるだろう。

また、これら3つをそれぞれ組み合わせたタイプもある。

例えば「高速処理型」と「課題解決型」を組み合わせた「高速課題解決型」だ。電子レンジなどはその代表格だろう。人間では不可能なマイクロ波を活用した方法で、火を使うよりも早く温めることが出来る。

また、「高速処理型」と「自動作動型」を組み合わせた「高速自動作動型」もある。コピー機がその代表格だろう。

人間が手で書き写す何百倍もの速さで、しかも自動で処理する。

こうした組み合わせの中で、「課題解決型」と「自動作動型」を組み合わせた「自動課題解決型」のタイプは多くはない。人間では実行不可能な課題を自動的に解決してくれる生産性の高め方は究極的でもある。

保育ロボットVEVOは、この「自動課題解決型」に当てはまる。

VEVOの役割は、保育園のエントランスに立ち、登降園時の時間を記録すると同時に、保護者と子どもに対して、今日1日の出来事や、子どもの睡眠時間、給食内容、発熱の有無などを伝えることである。子ども全員の詳細な情報を間違えることなく伝達することは、1人の保育士では実行不可能なことでもあり、しかもそれをわずかな電力だけで自動的に実行してくれる。

保育士不足は依然として継続しており、早朝7～9時に勤務できる保育士や、18～20時などの延長保育を担当できる保育士を確保することは、時給を1500円程度に上げたとしても簡単なことではない。早朝と延長保育の4時間を確保するだけで月に10万円以上のコストは確実に発生するが、VEVOは電気代だけで自動的に、かつ間違えることなく働くことができる。当然、本来的には保育士が勤務できるに越したことはないが、少なくとも保育士の負担の軽減には繋がる。

このVEVOの革新性に、世の中が気付く時代はそう遠くはないだろう。

●当レポートは、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。当レポートのご利用に際しては、ご自身の判断にてお願い申し上げます。また、当レポートは執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。なお、当レポートに記載された内容は予告なしに変更されることもあります。当レポートは著作物であり、著作権法に基づき保護されています。当レポートの全文又は一部を著作権法の定める範囲を超えて無断で複製、翻訳、翻案、出版、販売、貸与、転載することを禁じます。